

「東海」「北陸」を筆頭に全地域で悪化～政情不安等による供給制約を懸念

2022年4月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

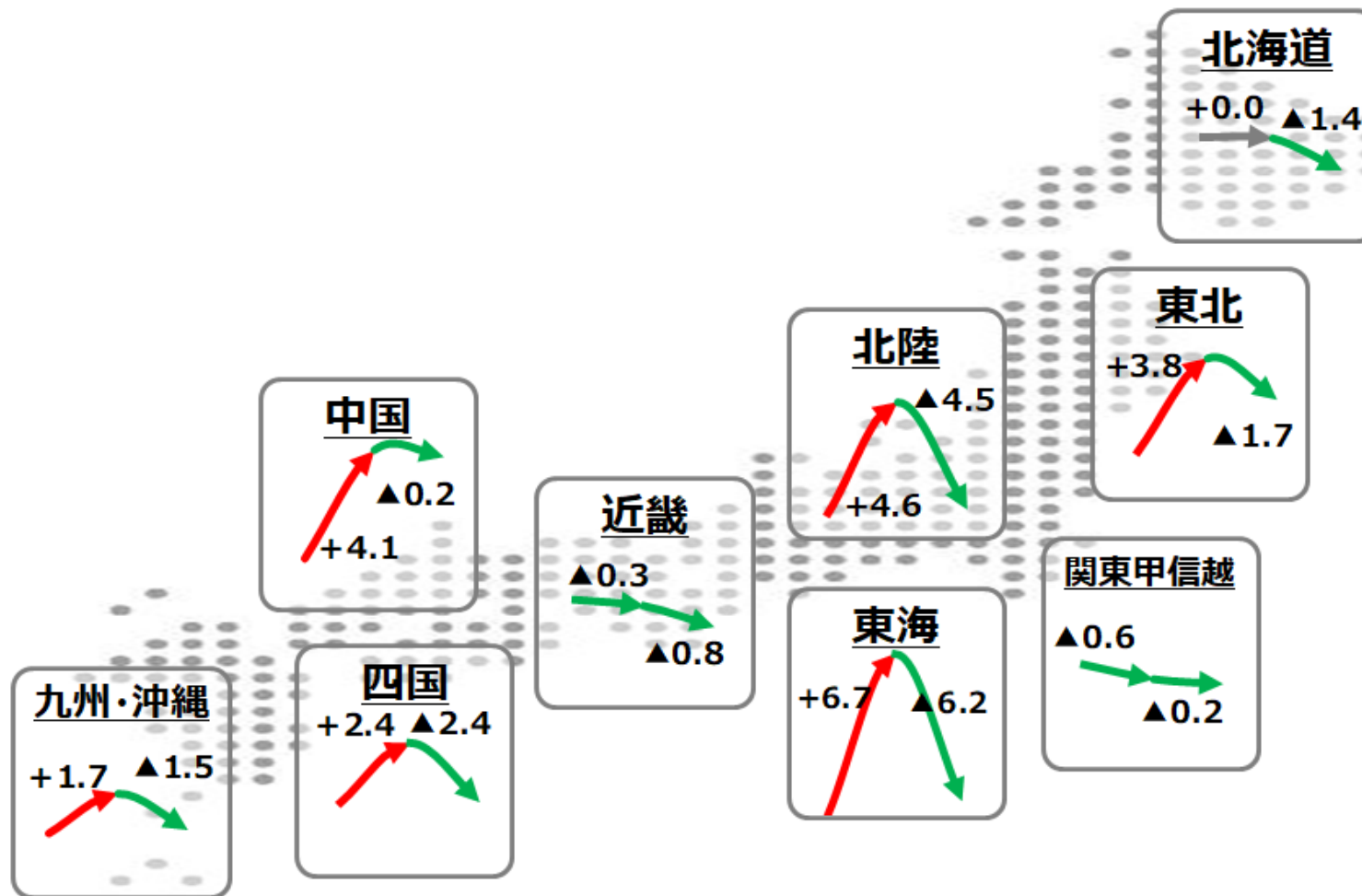
経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
研究員 中田 理恵

[要約]

- 2022年4月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「東海」「北陸」を筆頭に全地域で悪化した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、新型コロナウイルスの感染が再拡大して人々の外出が減ったことが影響し、消費は全国的にサービス消費を中心に悪化した。前回は消費全般が強かった「四国」では総じて弱めの動きに転じており、「北陸」「東海」なども持ち直しの動きが一服している。一方、「中国」など乗用車販売で改善している地域も見られる。住宅投資では、持家でペントアップ需要や在宅勤務を受けた住環境の改善需要が一巡しており、さらに住宅ローン減税特例措置の再開の様子見する人も増加しているといった理由で、「近畿」「東海」などでやや弱めとなっている。そうした中、雇用・所得環境は「中国」で改善の動きも出るなど、家計関連は一部に明るさも見られる。企業関連では、企業マインドがほとんどの地域で悪化した。半導体などの部品供給制約が再び強まり、前回、持ち直していた「東海」「北陸」「九州・沖縄」で生産が悪化、「東海」「九州・沖縄」は輸出も悪化した。一方、「北海道」「近畿」は輸送機械を中心に生産が改善し、「中国」は自動車関連で生産・輸出共に持ち直している。設備投資は、「北海道」が非製造業でやや慎重だが、「九州・沖縄」は半導体関連を中心に、「北陸」では生産用機械などで能力増強・省力化投資が進められており、企業関連は明るい材料も多い。なお、地域経済を下支えしてきた公共投資は、復興・復旧関連工事の一巡や予算縮小などにより、「北海道」「関東甲信越」「四国」で弱い動きとなった。
- 今春にはまん延防止等重点措置が全面解除となり、3回目のワクチン接種も本格化するなど、感染症に対する人々の不安が和らぎつつある。また、ロシアのウクライナ侵攻による影響は今のところ軽微との声が多いようだ。しかし、国内外の一部で感染が再拡大していることや、政情不安等の供給制約でさらなる価格上昇の可能性もあり、経済環境は引き続き不確実性が高い状況にある。
- 今後は、家計関連でサービス消費を中心に回復していくものと考えられるが、半導体や資源の供給制約が長引く場合には、生産・輸出の下押しや価格上昇による消費の押し下げの可能性がある。一方、供給制約の解消や省力化に向けて設備投資は改善していきだろう。地域経済は緩やかな回復基調にはあるものの、当面は持ち直しの動きと供給制約による悪影響が交錯するものと考えられる。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクスチーム、データ集計作業はリサーチ業務部データバンク課が担当している

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (21年10月→22年1月、22年1月→4月)



(注1) 各地域の数値は、2021年10月から22年1月の変化幅と22年1月から4月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（22年1月→4月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	▲1.4						
東北	▲1.7						
北陸	▲4.5						
関東甲信越	▲0.2						
東海	▲6.2						
近畿	▲0.8						
中国	▲0.2						
四国	▲2.4						
九州・沖縄	▲1.5						

（注）さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

（出所）日本銀行資料より大和総研作成

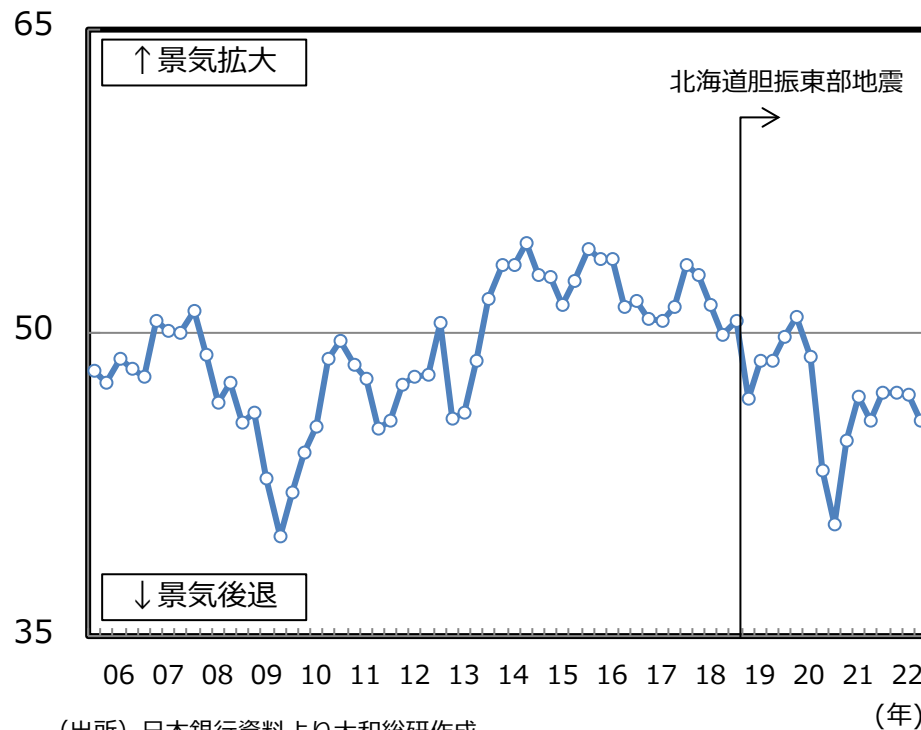
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (22年1月→4月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、低下した (22年1月: 47.0 → 4月: 45.6)。 前期に大きく悪化していた生産が改善した一方、企業マインドや設備投資、消費の悪化がインデックスを押し下げた。
東北	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した (22年1月: 49.3 → 4月: 47.6)。 企業マインド、消費、生産等が中心となってインデックスを押し下げた。
北陸	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した (22年1月: 51.5 → 4月: 47.0)。 生産の大幅な悪化に加えて、企業マインドや消費にも悪化が見られ、インデックスが大きく低下した。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で低下した (22年1月: 47.9 → 4月: 47.7)。 企業マインドや消費の悪化がインデックスを押し下げた。
東海	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した (22年1月: 52.0 → 4月: 45.8)。 生産が大幅に悪化したほか、消費、輸出、住宅投資等幅広い分野が悪化しインデックスを大幅に押し下げた。
近畿	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で低下した (22年1月: 47.4 → 4月: 46.6)。 生産に判断の改善が見られたが、企業マインド等の悪化がインデックスを押し下げた。
中国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した (22年1月: 48.9 → 4月: 48.7)。 輸出や生産の判断が改善したものの、企業マインドや消費の悪化を受けてインデックスは低下した。
四国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した (22年1月: 48.5 → 4月: 46.1)。 消費の大幅な悪化に加えて、企業マインドの悪化がインデックスを押し下げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した (22年1月: 48.3 → 4月: 46.8)。 設備投資が大きく改善したものの、生産、企業マインド、輸出等幅広い項目が悪化しインデックスは低下した。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、低下した（22年1月：47.0 → 4月：45.6）。
- 前期に大きく悪化していた生産が改善した一方、企業マインドや設備投資、消費の悪化がインデックスを押し下げた。
- 生産は輸送機械で緩やかに持ち直している。一方、設備投資は、木材・木製品業でロシアからの木材供給減及び国内材の需要の高まりを見越した能力増強投資をする動きも見られるが、宿泊業などの非製造業では慎重姿勢。

大和地域 AI インデックスの推移



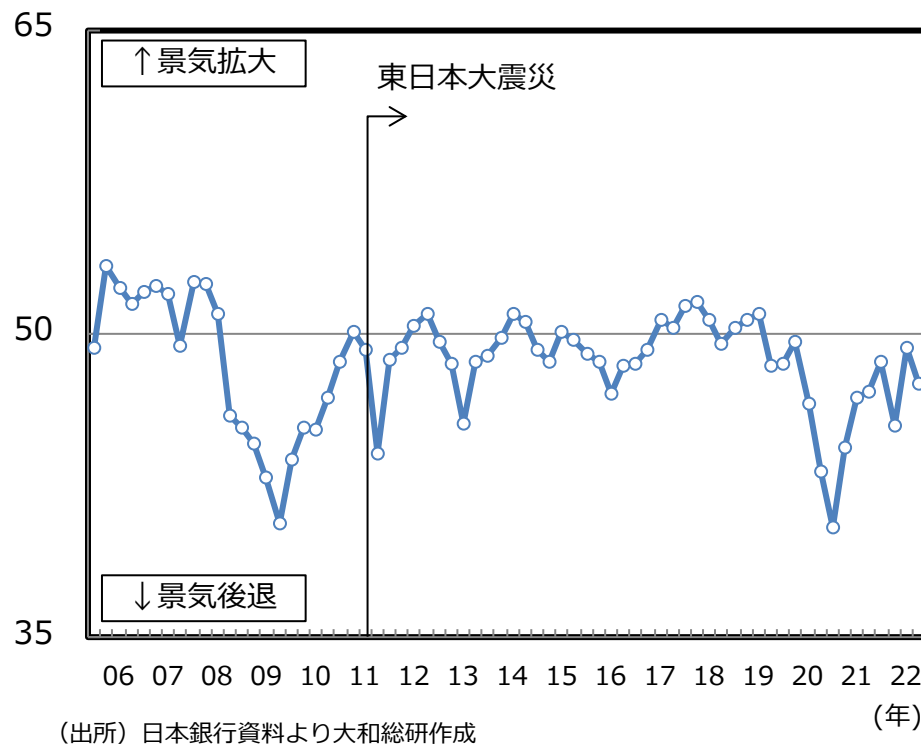
さくらレポートにおける分野別の判断

22年1月	22年4月
【総括判断】	↓
新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、持ち直しの動きがみられている	新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している
【企業の業況感】	↓
改善している	悪化している
【生産（輸送機械）】	↑
下げ止まっている	緩やかに持ち直している

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した（22 年 1 月：49.3 → 4 月：47.6）。
- 企業マインド、消費、生産等が中心となってインデックスを押し下げた。
- 消費は新型コロナウイルスの感染拡大の影響等を受けてサービス消費が弱い動きとなっている。前回、総じて増加基調にあった生産は、輸送機械で供給制約の影響により、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

大和地域 AI インデックスの推移



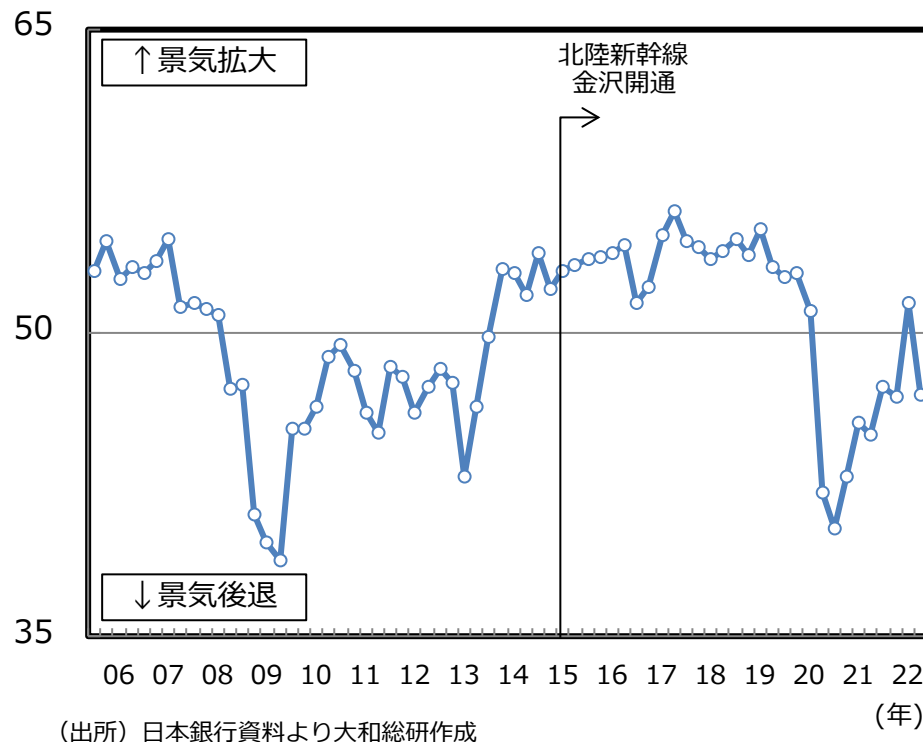
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 1 月	22 年 4 月
【総括判断】	↓
新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が落ち着く中、一部に持ち直しの動きがみられている	持ち直しの動きが一服している
【企業の業況感】	↓
幾分改善している	幾分悪化している
【消費】	↓
一部に持ち直しの動きがみられている	新型コロナウイルス感染症拡大の影響などから、弱含んでいる

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した（22 年 1 月：51.5 → 4 月：47.0）。
- 生産の大幅な悪化に加えて、企業マインドや消費にも悪化が見られ、インデックスが大きく低下した。
- 生産は半導体などの部品供給制約の強まりを受けて、電子部品・デバイス等を中心に悪化した。消費も宿泊者数や一部の百貨店・スーパー等の売上高で持ち直しの動きが一服している。

大和地域 AI インデックスの推移



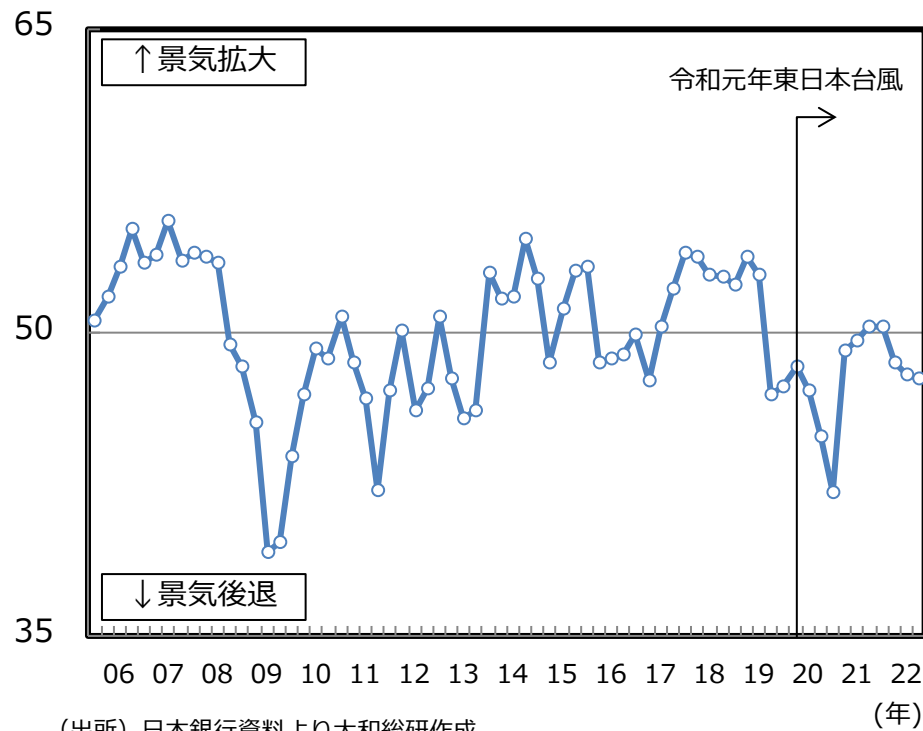
さくらレポートにおける分野別の判断

	22 年 1 月	22 年 4 月
【総括判断】		↓
持ち直している		持ち直しの動きが一服している
【生産】		↓
持ち直している		持ち直しの動きが一服している
【消費】		↓
持ち直している		持ち直しの動きに一服感がみられている

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で低下した（22 年 1 月：47.9 → 4 月：47.7）。
- 企業マインドや消費の悪化がインデックスを押し下げた。
- 消費は感染症の拡大及び人出の減少を受けて、百貨店や、外食や旅行関連など対面型サービスの判断が悪化した。公共投資も予算減少などで弱い動きである。

大和地域 AI インデックスの推移



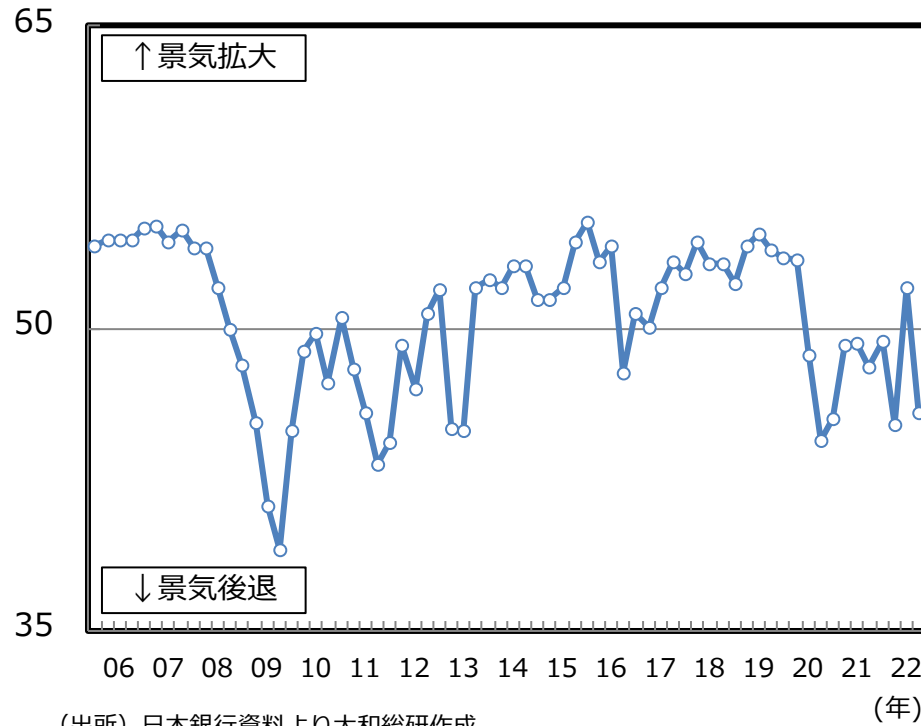
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 1 月	22 年 4 月
【総括判断】	↓
サービス消費を中心に感染症の影響が幾分和らぐもとで、持ち直している	感染症の影響などから弱い動きがみられるものの、基調としては持ち直している
【企業の業況感】	↓
改善している	幾分悪化している
【消費】	↓
感染症の影響が幾分和らぐもとで、徐々に持ち直している	感染症が拡大した時期を中心に弱い動きがみられている

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した（22 年 1 月：52.0 → 4 月：45.8）。
- 生産が大幅に悪化したほか、消費、輸出、住宅投資等幅広い分野が悪化しインデックスを大幅に押し下げた。
- 前は生産・輸出共に自動車関連を中心に増加基調にあったが、今回は再び部品の供給不足を受けて足踏み状態となった。

大和地域 AI インデックスの推移



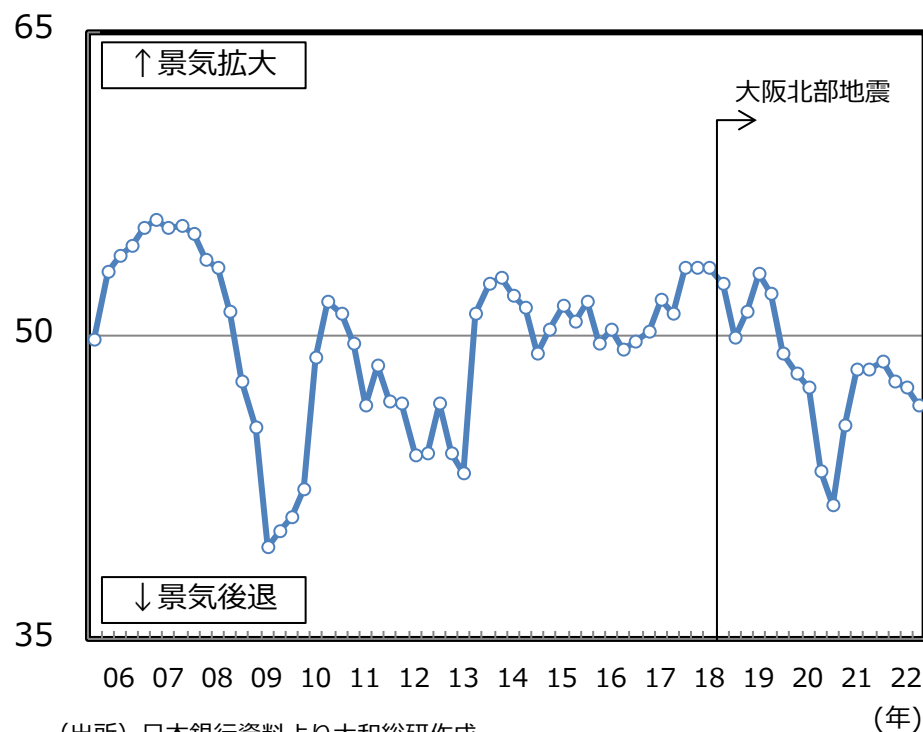
さくらレポートにおける分野別の判断

	22 年 1 月	22 年 4 月
【総括判断】		↓
持ち直している		持ち直しの動きが一服している
【生産】		↓
増加基調にある		足踏み状態となっている
【輸出】		↓
増加基調にある		足踏み状態となっている

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で低下した（22 年 1 月：47.4 → 4 月：46.6）。
- 生産に判断の改善が見られたが、企業マインド等の悪化がインデックスを押し下げた。
- 前回の生産では輸送機械関連で供給制約の影響で弱めの動きが残っていたが、今回はそれもなく、基調として緩やかな増加を続けている。一方、住宅投資は住宅ローン減税特例措置の再開を様子見する動きもあり弱い動きとなっている。

大和地域 AI インデックスの推移



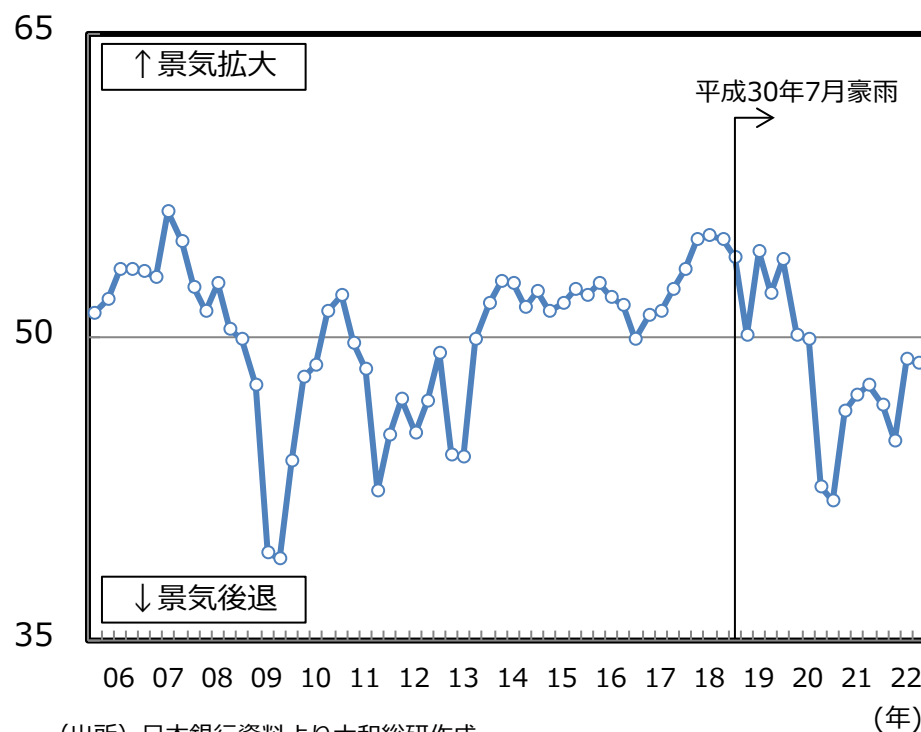
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 1 月	22 年 4 月
【総括判断】	↓
消費への新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで、全体として持ち直している	消費への新型コロナウイルス感染症の影響がみられているものの、全体として持ち直し基調にある
【生産】	↑
一部で供給制約の影響による弱めの動きが残っているものの、基調としては緩やかな増加を続けている	海外における感染拡大や供給制約の影響が一部にみられるものの、基調としては緩やかな増加を続けている
【住宅投資】	↓
持ち直している	弱い動きとなっている

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した（22 年 1 月：48.9 → 4 月：48.7）。
- 輸出や生産の判断が改善したものの、企業マインドや消費の悪化を受けてインデックスは低下した。
- 輸出は自動車部品で持ち直しており、生産でも自動車が生産供給制約の影響を残しつつも持ち直している。雇用・所得環境は改善し、消費は乗用車販売で持ち直しの動きがあるものの、全体としてはサービス消費を中心に下押し圧力が強い状態にある。

大和地域 AI インデックスの推移



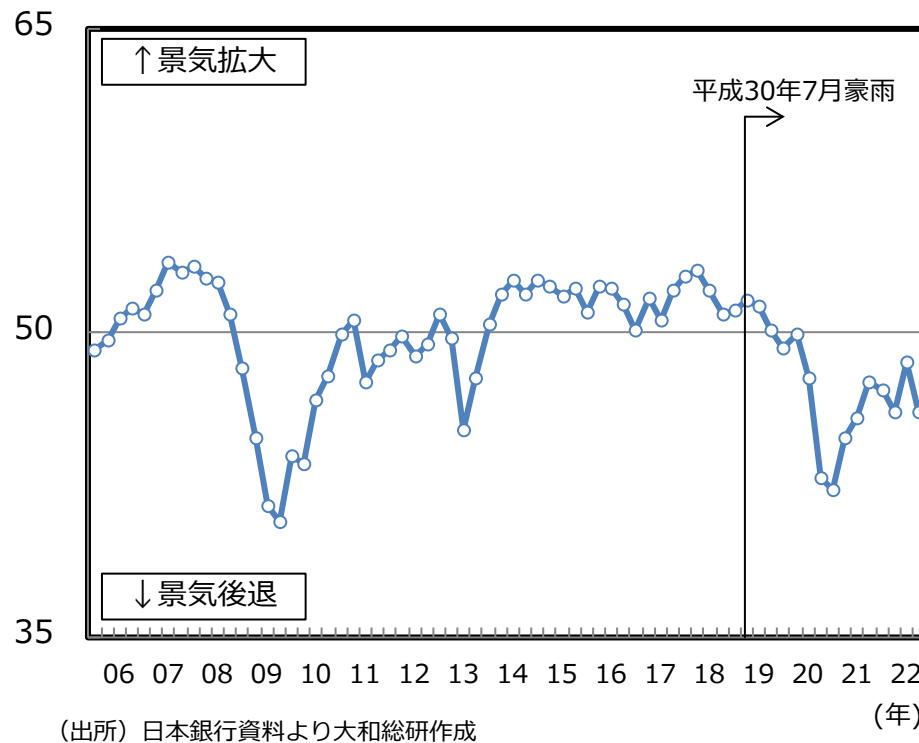
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 1 月	22 年 4 月
【総括判断】	→
持ち直しの動きがみられている	サービス消費を中心に下押し圧力が続いているものの、緩やかな持ち直し基調にある
【企業の業況感】	↓
改善している	小幅に悪化している
【輸出】	↑
持ち直しの動きがみられている	持ち直している

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した（22 年 1 月：48.5 → 4 月：46.1）。
- 消費の大幅な悪化に加えて、企業マインドの悪化がインデックスを押し下げた。
- 消費はまん延防止等重点措置の適用等を受けてサービス関連を中心に総じて弱めの動きに転じた。また、公共投資も西日本豪雨（平成 30 年 7 月豪雨）関連の復旧工事の一巡などもあり、減少に転じている。

大和地域 AI インデックスの推移



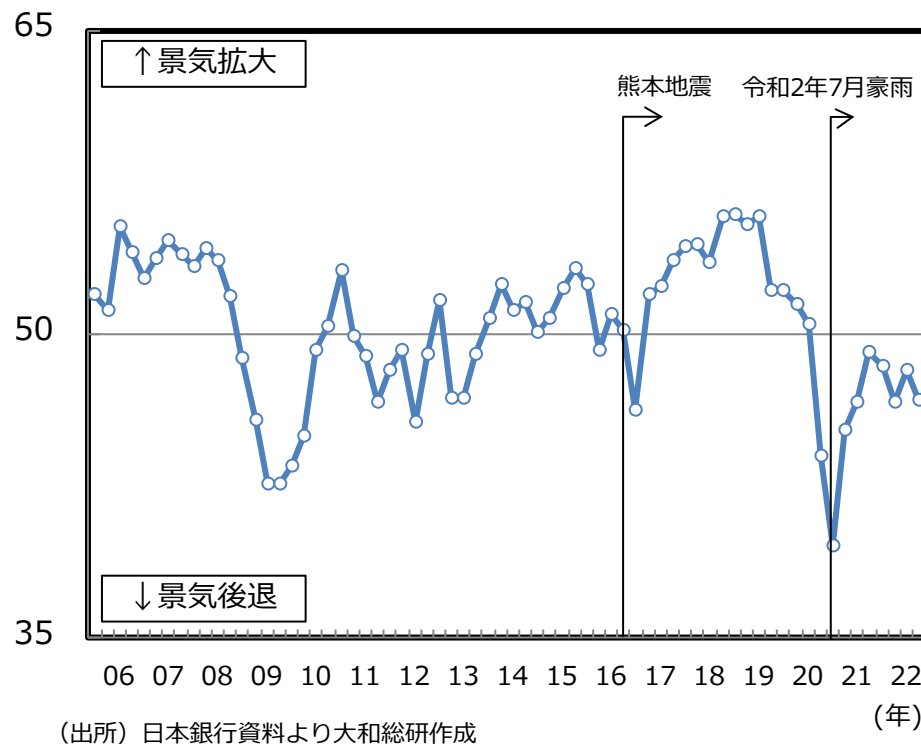
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 1 月	22 年 4 月
【総括判断】	↓
新型コロナウイルス感染症の影響 が和らぐも、 緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直しているものの、 一部に新型コロナウイルス感染症等 による下押しの影響がみられる
【消費】	↓
緩やかに持ち直している	サービス消費を中心に弱含んでい る
【企業の業況感】	↓
改善している	悪化している

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに低下した（22 年 1 月：48.3 → 4 月：46.8）。
- 設備投資が大きく改善したものの、生産、企業マインド、輸出等幅広い項目が悪化しインデックスは低下した。
- 設備投資は半導体関連を中心に能力増強投資が進められている。一方、生産・輸出は自動車などで持ち直しが一服、消費は新型コロナの感染拡大を受けて持ち直しのペースが鈍化しており、特に宿泊など旅行関連は引き続き厳しい状況となっている。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 1 月	22 年 4 月
【総括判断】	↓
新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、持ち直している	持ち直しのペースが鈍化している
【設備投資】	↑
一部業種に弱さがみられるものの、持ち直している	全体として増加している
【生産】	↓
持ち直している	持ち直しの動きが一服している

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要**となる。
- 本レポートの特徴として、**最先端の AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2022年4月11日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

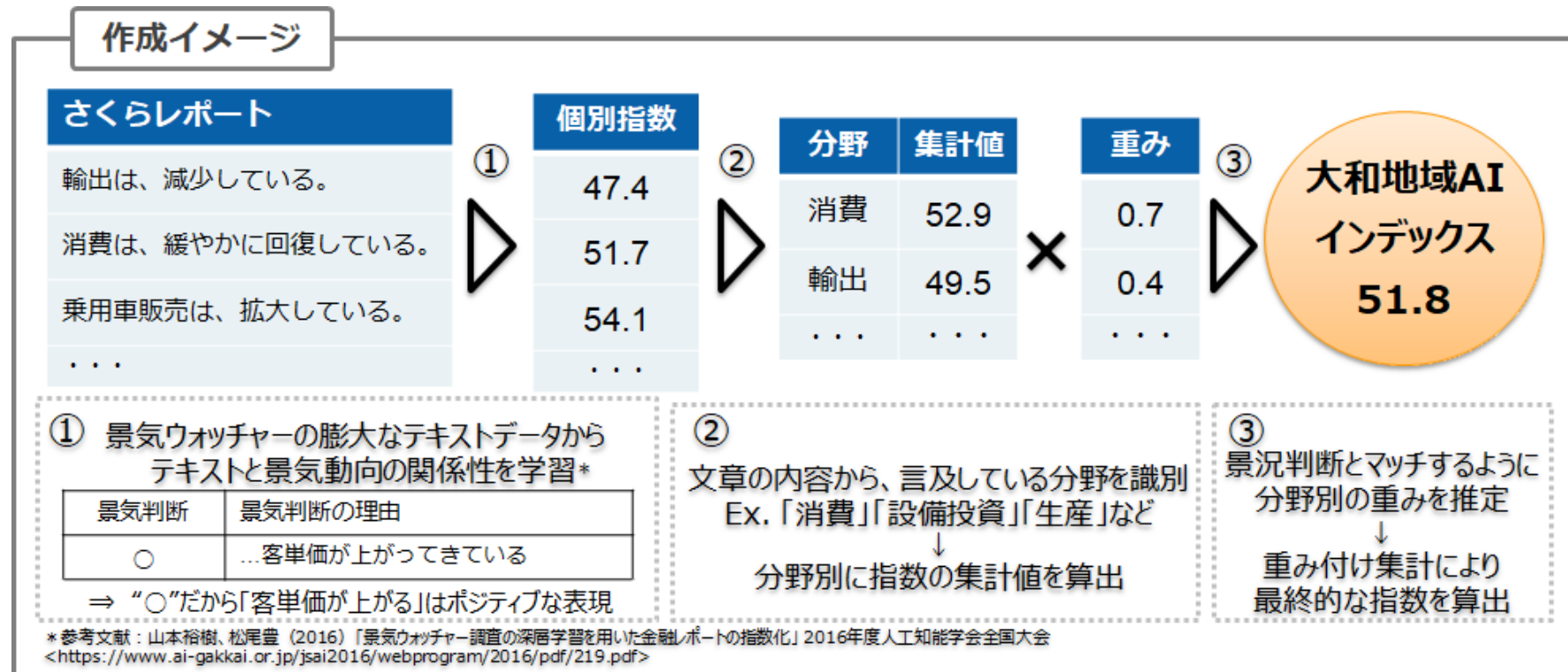
→ **地域別の景況感を最先端の AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成